

## 〈司書・大学院合格体験記〉

# 司書合格体験記

文学部文化学科 田 中 千 晴

司書として働きたいという夢を子供の頃から持ち続けていました。同志社大学に入学し、司書課程の講義を受ける中でその想いは強くなるばかりでした。そして幸運なことに4回生の2月、滋賀県立視覚障害者センターに司書として採用して頂きました。1年目は嘱託職員として働き、2年目の現在は正規職員として働いています。

滋賀県立視覚障害者センターは、滋賀県で唯一の点字図書館（視覚障害者情報提供施設）です。公共図書館や学校図書館とは違い、視覚障害者の方を対象に点字図書と録音図書を貸出しています。少し特殊な図書館ですが司書としてのスキルが発揮でき、とてもやりがいのある職場です。

### ○司書になるための勉強

私の第一志望は公共図書館でした。公共図書館の職員になるためには公務員試験を受ける必要があるため、教養試験（文章理解・数的処理・人文科学・自然科学・英語など）対策のため学内の公務員講座を受講しました。この講座は授業内容は予備校と同じなのに、学校内で受けることができるので大学の近くに住んでいた私にはピッタリでした。また、公務員志望の友達と一緒に受講していたので、わからない所を教えてもらっていました。

司書採用試験では二次試験で専門試験（図書館学）の問題を出す所も多いので、並行して図書館学の勉強もしてきました。過去問は『図書館員への招待』（塩見昇編著、教育史料出版会）の巻末に載っている他、過去の受験生がインターネット上で公開しているケースもあります。同志社大学には司書を目指している人たちの勉強会もあるので参加してみるのもいい刺激になると思います。この勉強会では先輩方の残してくれた過去問のファイルを元に、問題を解き、理解を深め合うことができます。

そして余力があれば、図書館でアルバイトをすることをお勧めします。私は大学時代他のアルバイトをしていたので図書館のアルバイトは短期でしか経験がありませんでしたが、図書館を身近に知ることができるいい機会になりました。

### ○図書館実習で得たこと

同志社大学の司書課程では4回生の夏から秋にかけて短い所では3日程度、長い所では2週間程度図書館で実習を受けます。私は夏休みに2週間大阪府立中央図書館で実習させて頂きました。蔵書数も多く、障害者サービスをはじめ多様なサービスを実施している図書館なので、毎日本当に多くのことを学べました。実習は講義では絶対に得ることのできない「経験」を学ぶことができる場です。生徒が自由に実習館を選ぶわけではありませんが、司書になりたいと思うのであればできるだけ期間の長い図書館を希望することをお勧めします。自分の中の司書の可能性にきっと気づけると思います。

大阪府立中央図書館の対面朗読室では全盲の司書の方が働かれています。実習

中にその方とお話し、図書館における視覚障害者サービスについて学ぶ中で私は視覚障害者サービスに対して興味を持ち始めました。そして4回生の冬、公共図書館の司書採用試験で落ちていた私は、視野を広げてみようと思ひ滋賀県立視覚障害者センターの求人に応じました。試験内容は筆記試験（一般常識・時事問題）、論文、面接でした。そして結果は合格。卒業間際でしたが奇跡的に司書になることができました。実習での経験がなければ私はこの求人に応じ込んでいなかったかもしれません。正しく縁があった、ということだと思います。現在、忙しいながらも充実した毎日を送れていることに感謝しています。

#### ○司書になりたいと思う人へ

司書は人と本を繋ぐ仕事です。ただ知識を持ち、資料を知っているだけではなくそれらを利用者に上手く提供すること。それこそが司書の仕事のやりがいであり、喜びだと私は考えています。

自分がどのような司書になりたいのかイメージし、その実現のためにどのような努力をするべきか自分で考える。そして行動する。司書の採用状況は悪くなるばかりですが、信念を持って努力したことは必ず何らかの形で報われます。司書になりたいと思った気持ちを大切に、頑張ってください。心から応援しています。

（たなか ちはる。現在、滋賀県立視覚障害者センター勤務）

### 文学部文化学科 森 脇 明日香

司書としての仕事が始まってはや2ヶ月。私が勤務先である出雲市立出雲中央図書館へ就職を決めるまでには、長い時間と大きな決断が必要でした。

大学3回生の冬から民間企業への就職活動が始まり、大阪、名古屋、東京と多くの企業の就職試験を受けました。大学3回生なら誰もが通る道であると感じ、手帳に細かく書かれたスケジュールと、エントリーシート、適性検査に面接をこなしていました。特に、働きたいと熱望する企業があるわけではなく、説明会に参加し、自分の働く姿を想像し、企業側とのマッチングにより、志望度を絞っていったように思います。おかげで、求人広告の企業から内定をいただくことができ、私は就職活動を終えました。一ヵ月後には教育実習が迫っていた、大学4回生、4月のことです。

教育実習で地元の中学校へ行き、私を育ててくれた故郷への感謝の気持ちを実感することになります。自然、まち、子ども、夢、未来・・・私が故郷を出て大学へ進学する前に抱いていた、自分自身の『夢』を故郷が思い出させてくれました。私は、中学生の時に出会った一人の恩師に憧れ、教師になりたいという夢を持っていました。その夢をかなえるため、大学へ進学したのです。しかし、現実には甘くなく、地元での教員採用枠は決して広いといえるものではありません。いつしか私は教師になりたいという夢を諦めていました。

大学では、教員免許の取得のほか、司書と司書教諭の免許取得に向けての講義を履修していました。教師になれなくても、私が大学で学んだ教育学を行かせる仕事に就ければと、わずかな望みを残していたこともありました。民間企業に内定をもらっているながら、本当にこれでいいのかという自問自答は、教育実習を終えた6月末から始まっていたように思います。

悩み続けたまま、11月の図書館実習のため地元へ帰る時期がやってきました。図書館実習は、出雲市立大社図書館でさせていただきました。無理なお願いにも関わらず、お忙しい中出雲市の現状、図書館の現状を話してくださり、短い時間でありながら、大きな学びを得ることができたように思います。そして、この実習を機に、私の気持ちが大きく変化していったのです。故郷に関わる仕事をしたこと。教育に関わる仕事をしたこと。大学進学をする前に抱いていた教師だけでなく、地域や子どもに関わる仕事をしたことという思いが強く、そして自分自身の中では、すでに決心がついていました。

内定を辞退するという事は、多くの方々に迷惑をかけることであることを承知の上、私は内定を辞退しました。両親をはじめ、私を支えてくれた人たちはみな、社会人を経験してから地元へ帰るのも悪くないのではと反対をしました。けれど、みな私の人生は私が決めるものだからと、私を応援してくれたのです。

それから今日に至るまでの時間は、何もかもがあっという間でした。年が明け、卒業論文を提出した後からはじまった2回目の就職活動。運よく、実習させていただいた図書館からの連絡で、出雲市内の図書館の嘱託職員の募集があるとのことで、受験させていただきました、採用となり、司書としての社会人生活がスタートしたのです。

何もかもが初めてで、戸惑い、不安になりつらいと感じることも多くありましたが、現在は毎日が勉強であり、多くの学びを得ることの喜びを感じることができるようになりました。司書としてはまだまだ一人前とはいえませんが、利用者の方に気持ちよく、満足していただけるサービスができるよう努めていきたいと思っています。

迷った時、つまずいた時、私にはあたたかい手を差し伸べてくれる人がたくさんいました。そのおかげで今の私がここにいるように思います。そのすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。そして、このつたない文章を最後まで読んでくださった皆様にも感謝申し上げます。

同志社大学の司書課程の先生方、そして学生のみなさんの今後のご活躍を心よりお祈りしています。

(もりわき あすか。現在、出雲市立出雲中央図書館勤務)

## 大学院合格体験記

文学部文化学科 野間 久美子

現在私は、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市情報学専攻の修士課程1年です。大学院へ進学しようと最初に思い始めたのは3回生のころでした。同志社大学では文学部文化学科教育学専攻（現在の社会学部教育文化学科）でしたが、2回生の時に中村百合子先生の授業を受け図書館情報学に興味を持ち始めました。これがきっかけとなり、3回生から司書課程を取ることにしました。司書になりたいと思い始めたのもこの頃です。そんな図書館情報学への思いが高まっていた時に、もっと勉強したいと思い、ぼんやりとですが大学院へ進学したいと思ったのです。

しかし、3回生の秋ごろから就職活動を始めました。大学院への進学を希望

する一方で教育系の出版社へ勤めたいという気持ちもありました。数社受け、就職活動がひと段落しもう一度よく考えてみると、やはり司書になりたい、なるためには自分自身もっと勉強したいという結論にいたりました。この時点でもう4回生の6月ごろでした。

それから、具体的に大学院入試への準備をし始めました。まず、どこの大学院へ進学するのか、そこから決めなければなりません。最終的に大阪市立大学に決めた理由は大きく2つあります。1つ目は創造都市研究科都市情報学専攻では、図書館情報学だけではなく地理情報学や情報ネットワークなどさまざまな情報学を扱っています。近年、インターネット技術の発達により、情報が溢れる社会となっています。これにより、図書館は図書だけを扱うのではなく、すべての情報を扱う情報センターとしての役割が課されるだろうと思います。また、これからの図書館員は広く情報を扱える人でなくてはならないと私は考えます。そこで、情報学も学べる大阪市立大学を選びました。また、創造都市研究科は「社会人向け大学院」ということで授業が平日の夜間と土曜日に行われます。平日の昼は図書館でアルバイトをしながら、つまり現場で働きながら学ぶことが出来るのも魅力でした。

入試対策としては、まず大学院進学説明会に参加し、そこで試験情報を手に入れました。入試は9月末に行われ、科目は小論文と面接でした。小論文の対策としては話題のWeb2.0について、関連の図書や雑誌などを読み知識を増やしました。また、面接対策として修士論文でどのようなことがしたいのかをまとめ、司書課程の授業で習った図書館情報学の基本的な用語の確認も行いました。願書の提出が8月末だったのですが、願書と一緒に卒論の概要も提出しなければなりません。なので、入試の勉強と卒論を同時に進めていかなければなりません。

現在は大阪市立大学工学部サブセンター（工学部図書室）で昼間働きながら、夜と土曜日に大学院の授業を受けています。理系よりの情報学の授業も多く苦戦していますが、今までとは違う分野の世界も広がり楽しんでいます。大学院の勉強、修士論文、図書館の仕事、就職のための勉強と目白押しの毎日ですが、充実した大学院生活を送っています。

（のま くみこ。現在、大阪市立大学大学院創造都市研究科  
都市情報学専攻知識情報基盤研究分野修士課程在学）